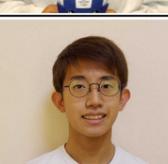
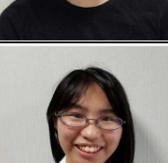


パラリンピック聖火ランナー 静岡県実行委員会選出者一覧

● 走行予定日 : 2021年8月17日 (39人)

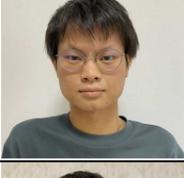
※ 姓名50音順・敬称略

写真	フリガナ 氏名	年齢 (7/31現在)	ゆかりの ある市町	自己PR・応募動機 / 推薦理由 (※応募時文章を要約。2020年2月応募時の内容・文体に基づく。)
	イイツカ ショウタ 飯塚 翔太	30	—	この度の東京パラリンピック聖火ランナーをさせて頂くことをとても誇りに思います。子供の頃からテレビで聖火ランナーの様子を見て来ました。小学6年生の時にオリンピック選手になりたいと夢を持つようになり、オリンピックについて調べたり学校で発表したりしました。その時聖火ランナーの事を初めて知り、平和を掲げるオリンピック・パラリンピックのシンボルに感動しました。それから2012年のロンドン五輪、2016年のリオ五輪を経験し、世界中の人が開催国に集まりスポーツを通じて平和に向かっていく事の素晴らしさを知りました。全く文化も国籍も違う人たちが肩を組んで応援したり写真を撮る姿は何度も拝見しました。現在は新型コロナウイルスの影響で世界が大変な状況になっています。オリンピック出場から希望の道をつなぎ、終息する日を想い希望に向かって地元、御前崎市を走りたいと思います。
	イダ カズヒサ 井田 一久	73	下田市	16年前、妻と二人で神奈川県から伊豆下田へ移住してきました。災害ボランティアのNPOを始め、移住促進のNPOも立上げ妻と二人三脚で歩んで来ましたが、10年前、私はパーキンソン病を患い、体の自由が奪われていく不安な生活が始まりました。6年前、一緒に頑張ってきた最愛の妻を病で失い、絶望と失意のどん底から抜け出せない苦しい日々が始まりましたが、周りの皆さんの暖かな励ましや応援によって少しずつ、生きる気力を取り戻すことができたのです。体は不自由なままですがまだ走れる姿を応援してくれた皆さんに、天国で心配しているであろう妻に、パーキンソン病で苦しんでいる仲間、まだまだできるぞ！と勇気と希望を与えたい。
	イデ トモユキ 井出 智之	34	富士宮市	私は、てんかん発作を持って生まれました。16歳の時、オベをすることができ発作が落ち着き、夢への希望を再び持つことができました。パラスポーツの陸上やバドミントンに挑戦し、2006年には全国大会で銀メダルを獲得しました。長い入院の中でたくさんの方々から助けられたことに感謝し、知識を増やして社会貢献がしたいと考えようになりました。病院で働きながら、介護福祉士の資格を取ったり、通信教育で大学を卒業したりして、色々な事にチャレンジしてきました。自分の人生の中で、誰にでも可能性がある事を学びました。だからこそ、東京パラリンピックという舞台上、夢に向かってチャレンジしている選手を、私も一緒に応援していきたいと強く願うようになりました。
	イト マナミ 伊藤 真波	36	静岡市	推薦者はパラリンピックの水泳元日本代表で北京で4位、ロンドンで8位の入賞経験があります。静岡市の生まれで約22年間居住しております。20歳の時に交通事故で右腕を切断し、リハビリ入院後は、日本初義手の看護師として兵庫県の病院にて約8年間勤務。現在は講演会をメインに活動し、「あきらめない心」を演題に交通事故後失意のどん底から看護師になり、パラリンピック、結婚、子育ての経験を伝えていきます。また、義手で演奏する片腕のバイオリニストとしても活動。普段の活動から、どうすればパラリンピックを身近に感じてもらえるか、広めていけるかを考えながら活動を行っており、今回の応募で少しでもパラリンピックを注目してもらえるきっかけになればと思います。
	イナバ ダイチ 稲葉 乃知	25	静岡市	稲葉乃知さんは、歌舞伎症候群という障害をもっていますが、柔道の全国大会では金メダルに輝きました。コンビニでの仕事では誰よりも大きく元気な声での挨拶と笑顔で、お客様に元気を与えてくれていました。創意工夫しながら真心に仕事に取り組もうとする姿勢に「元気をもらえるんだよね。自分も仕事を頑張ろうと思わせてもらおう。」と、お客様からの声も頂きました。こちらがどう関わるかで、彼の可能性も大きく変わることを経験し、人の可能性というものを教えてくれました。彼の素直さや元気さ、障害を持っていてもチャレンジする姿勢で、見ている方に自分の可能性を感じてもらったり、元気を与えられたらと思います。
	イマイズミ ソウ 今泉 颯	17	浜松市	颯は、小学校1年生の夏に心臓の病気が見付かり、1年後に手術をすることになりました。注射もこわかった颯が、手術をするのと知ってからは、毎晩のように泣いて嫌がりました。私も毎日辛くて、トイレに隠れて泣いていました。そんな暗い日々から私達を救ってくれたのが卓球でした。幼稚園の時から始めた卓球で、全国大会に出ようと目標をたて、いつしか手術の事も忘れるくらい毎日練習に励むようになりました。努力の結果、念願がなって全国大会に出場する事ができました。そして全国大会が終わって間もなく、手術も無事に成功しました。その時にお世話になった方々や、支えてくれた卓球への感謝の気持ちを込めて、ランナーとして走ることができればと思います。
	ウチダ ヒロム 内田 大夢	21	浜松市	知的障害と自閉症スペクトラムを併せ持つ大夢君がべんぎん村水泳教室へ通うようになったのは、5歳位の頃です。2歳下の弟と楽しく通い、水を得た魚のように、水泳が好きになりました。小、中、高校の大会も周囲の協力を得て出場してきました。陸の上ではコミュニケーションなど社会的障壁を抱えていますが、水のなかにはそれはなく、勝負の世界で他校の生徒と競い合ってきました。現在は、静岡県知的障害者水泳協会における強化指定選手として、社会人と水泳の両立を頑張っています。今の目標は日本最高峰のジャパンパラ水泳競技大会などの決勝の舞台に立つことですが、いづれ世界で活躍できる日を楽しみにしています。
	ウチダ ナオキ 内田 直希	19	浜松市	知的障害と自閉症スペクトラムを併せ持つ兄の大夢君とべんぎん村水泳教室へ通うようになったのは、3歳位の頃です。めきめきと実力をつけ、浜松市小学校水泳大会では、平泳ぎ、フリーリレー、メドレーリレーで決勝に出場しました。直希君は障害のある仲間との練習を通じて、自然と手を差し伸べる若者に成長しました。2019年夏はパラリンピック発祥のイギリスへ語学留学へ行き、東京2020では、パラリンピックのボランティアにも応募しました。いづれパラリンピックを目指す兄を応援するサポーターの弟は、兄弟で聖火リレーをつなぐことを夢んでいます。今後の日本が目指す地域共生社会を担う若者の活躍に期待しています。
	エノモト レミ 榎本 礼美	39	富士宮市	仕事で24歳の時に静岡県富士宮市に越して来て、最初に始めたのが、富士ハーネスでの盲導犬のボランティア。その繋がりですぐ29歳から視覚障害者の方の伴走ボランティアを始めました。最初は「助けてあげる」という気持ちで始めたボランティアでしたが、むしろ私が引っ張って貰っているようでした。そして実感したことは、ただ目が見えないということだけで、それ以外は何も変わらないこと。健康者と障害者との距離感がぐっと近くなる経験をさせて頂きました。今回のパラリンピック聖火ランナーで、伴走ボランティアに関わった全ての方に感謝の気持ちを、そして私と同じ体験を多くの方にしたいと思っています。
	オキ ミズキ 沖 瑞葵	17	御前崎市	小さい頃から発達が遅く心配していた娘は、今は池新田高校に通っています。自分の意思で普通高校を選び受験して合格する事ができました。何かをやり遂げるという達成感は初めての経験だったと思います。そんな娘が、また自分の意思で聖火ランナーをやりたいと言いました。パラリンピックはいろんなハンディキャップを乗り越えてスポーツで競い合う素晴らしい大会です。娘もハンディキャップがありながら頑張れば受験にも合格する事が出来るという事を私に見せてくれました。聖火ランナーという大役をやる事が出来れば今まで見たことの無い娘の姿を見せて貰えると思います。
	カト アスミ 加藤 あすみ	29	浜松市	彼女は5歳のときの20分以上の心肺停止が元で、四肢麻痺と言語障害が残りました。上肢障害1級の為 就活に苦労しましたが、1年契約で採用され、未経験のCADをOJTで覚え、翌年正社員登用して頂く事ができました。また休みの日は趣味の着物の仲間と外出し、車イスでも和服を楽しめることをSNSで発信しています。重度障害でも本人次第で、健康者と同じ職場で働ける可能性があること、身構えずに自らが外へ出ていったなら、会話が不自由でも多くの人が受け入れてくれるという事を、多くの皆さんに知って頂けると嬉しいです。
	カワサキ トモカ 川崎 朋香	37	静岡市	私はずっと大好きな静岡市で暮らしてきました。小さい頃の夢であった保育士を志し、市民の為になりたいと思い、静岡市の保育教諭として勤務しました。自分の子どもが3人とも発達障害と判明し、支援学級、放課後デイサービスで療育を受けさせてもらっています。子どもの都合もあり、公務員としての両立は難しく退職しましたが、現在は放課後デイサービス等で経験を生かし、パートとして子どもの支援をさせていただいています。パラリンピックを応援する一人として、また子どもにも聖火ランナーとして頑張る姿を見せてあげたいので聖火ランナーに参加させていただきたいです。

パラリンピック聖火ランナー 静岡県実行委員会選出者一覧

●走行予定日：2021年8月17日（39人）

※姓名50音順・敬称略

写真	フリガナ 氏名	年齢 (7/31現在)	ゆかりの ある市町	自己PR・応募動機 / 推薦理由 (※応募時文章を要約。2020年2月応募時の内容・文体に基づく。)
	コマツ サキ 小松 沙季	26	浜松市	応募動機は「恩返し」と「挑戦」の2つです。2018年まで浜松市を拠点として活動しているVリーグのBREATH浜松に所属おり、ファンの皆様に何か恩返しが出来ないかと考えていました。そんな中、2019年6月から私は下肢機能障害で立つ事が出来なくなりました。現役の頃は全く違う姿になってしまいましたが、勇気や希望を与えて恩返ししたいと思っています。そして私は今2024/パリ五輪パラリンピックを目指そうと決意したばかりです。Vリーグのファンの方々がパラリンピックに興味を示すきっかけにもなれば良いと考えています。この聖火リレーが私の新たな挑戦への灯火ともなると思っています。
	サノ ジュンペイ 佐野 純平	26	熱海市	私は2009年に脳腫瘍を患い、2018年に脳梗塞になり、両手両足に障がいが残ったため、今は車いすで生活しています。17歳の時から障がい者の野球チーム「静岡ドリームス」というチームに所属して、バラスポーツにはとても関心がありました。脳梗塞になり歩けなくなってしまい落ち込んでいた時にウィルチェアラグビーの練習を見に行っていたことがあり、感動と勇気をたくさんもらいました。自分も自らの経験を通して、学んだことや感じたことを大切に、これからも前を向いて進んでいきたいです。そして、これからは自分の体験もどんどん発信していきたいです。聖火リレーに参加することがその最初の一步になったらと思っています。
	シバタ ルリ 柴田 留理	34	浜松市	私は聴覚障がい者です。大学で英語を専攻し、卒業後、沼津聴覚特別支援学校で5年間勤め、その後、ANA成田エアポートサービスに転職しました。国際線グランドスタッフとして働く傍ら、飛行機や空港のユニバーサルサービスに携わり、「機内アナウンスカード」を提案し、導入しました。ユニバーサル推進チームや手話サークルも立ち上げ、手話サークルの部長と講師を兼任し、心のバリアフリーを浸透させる活動を行ってきました。また、「障がいの社会モデル」の考え方を浸透させるため、DPI日本会議の研修や慶応大学の講義等で講師を務めてきました。ANAで5年働いた後、再び浜松市で教員に戻りました。
	スズキ マサミツ 鈴木 将允	83	静岡市	私は両感音性難聴、左耳はほぼ不能、右は通常、人の5分の1、しかし最新の補聴器のお陰で会話可能です。私は現在82歳、公務員を36年間勤めた後、在静外国人に日本語を20数年奉仕で教えています。同時に民生委員を15年続け、また障害者理解のため、ある大学に再入学し認定心理士の資格をとりました。私は障害を不幸とは思わず、前向きに生きていると思います。私の生き方を踏まえ、障がい者は①周囲に感謝して生活する。②勇気をもって行動する。③自分の存在が世の中を明るくする。このような願いを聖火に託して、一生懸命走らせていただきたいと思います。
	スズキ エツコ 鈴木 悦子	50	浜松市	私は30歳で視覚障害者となり、仕事もできなくなり途方に暮れていました。そんなとき、視覚障害者の先輩である悦子さん(妻)と出会い、見えなくても走ったり歌ったり、いろいろなことができると教えてもらいました。そのおかげで私は教員になることができ、陸上競技では国際大会でメダルを取ることができました。また私とともに陸上競技を続けており、2015年に韓国ソウルで行われたIBSA(視覚障害者の世界大会)では800mで4位に入賞し、関わってくれたたくさんの方の勇気づけました。彼女の努力する姿を見て、伴走者も徐々に増えてきています。こうして彼女が作ってきた環境が未来につながると信じています。
	スズキ マサコ 鈴木 雅子	59	焼津市	私は目の難病である網膜色素変性症を患っている。12年前に病気がわかり、見えなくなる不安からパニック障害やうつ病になり、引きこもるようになったが、東日本大震災で東北の人々が苦難の中でも立ち直ろうと前を向く姿に励まされ、今できることを精一杯行おうと思えるようになった。私の願いである、一番苦労した子供たちに幸せな未来をとの思いで、タイの山岳地帯の子供達が教育を受けられる援助活動に協力したり、盲導犬からCC犬となったウオークと共に小学校で朝の見守りあいさつ活動をしている。パラリンピックの聖火ランナーになり、難病や心の病を抱える方、つらい思いをしている子供達に寄り添っている方、そして何より子供達に少しでも励みを与えることが出来たら、こんな幸せなことはない。
	スズキ ソウタ 鈴木 聡太	13	伊豆の国市	ぼくと弟の聡太は一卵性の双子です。弟だけが重度の脳性まひで生まれてきました。弟は歩くことも言葉を言うこともまだできません。でも小学生になってから車いすの練習をたくさんして上手にこげるようになったし、言葉は言えなくても身ぶり手ぶりで伝えることができるようになってきました。ぼくたちはけんかもするけれど仲良しです。聖火ランナーになるチャンスは一生に一度しかないかもしれないので、弟が車いすをこいで走れるといいなと思いました。弟がランナーに選ばれたらぼくも何かお手伝いしたいです。
	タカハシ ナギサ 高橋 渚	32	沼津市	私は生まれつき聴覚障害を持っています。また主人と息子も聴覚障害です。私は陸上競技のやり投げ選手で、今も現役です。今までデフリンピック3大会や世界聴覚障害者陸上競技選手権3大会に出場しました。障害を持っていても可能性は沢山あることをアピールしたい。聴覚障害のある子どもたちにパラリンピックと同様にデフリンピックの魅力を知ってもらいたい。支えてくれた家族、協力して頂いた静岡県陸上競技連盟、応援してくれる仲間たちに感謝の気持ちを込めて走りたいです。
	タナカ タカヒロ 田中 貴博	40	吉田町	私は吉田町の妻と結婚し息子を授かり、吉田町へ移住した矢先に交通事故で脊髄損傷になり車椅子生活を余儀なくされました。目の前が真っ暗になり、全てが終わったと思いました。車椅子の私に対し、家族は一生懸命支えてくれ、仲間は健常者の時と変わらずに接してくれました。そして、この町に恩返しをしたいと思い、吉田町役場に就職し、福祉課在任中に障害を持った子供達の支援を通じて、子供達から無限の可能性を教わり、私がプロ野球選手に憧れていたように、いつかこの子供達が私の背中を見て希望を持ってほしいと思いました。家族への感謝、障害を持った子供達への希望、仲間への恩返しを胸に、堂々と完走したいです。
	デグチ シュンシ 出口 隼詩	20	熱海市	私は10万人に1〜2人が発症する脊髄性筋萎縮症という進行性の難病のため電動車椅子を使い生活しています。熱海で生まれ18年間家族や友人、周りの人、治療にあたってくださっている先生方のおかげで生活してきました。4月からは静岡・熱海を離れ、東京で大学生活を送りながら自立を目指し、生活しています。私は障害から数多くの学びや気づきを得ました。障害があっても何かを諦めない気持ちがあります。東京パラリンピック聖火リレーでは熱海市と私を支えてくれた方々に感謝の気持ちを込め、聖火を持ち、走りたいと思います。
	ナガシマ オサム 長島 治	52	熱海市	熱海市で生まれ、育ち、自分を育ててくれた県・市に来てくれるパラリンピックの聖火リレー。これまでの「地元への愛」「友人達との絆」「家族への感謝」の思いを胸に走り抜けたと思います。我が家では、2004年から国際交流活動を行っており、これまでにお隣りの韓国・中国・台湾・フィリピン・ロシア、遠くはアルゼンチン・コロンビア・メキシコ・ポルトガル・ブルガリアなど21ヶ国、50名余りの外国の方をホームステイで受け入れ、こちらからもホームステイに出かけております。世界中にいる「大切な息子・娘たち」とは今でも連絡を取り続けておりますので、東京パラリンピックを事前にアピールし、日本のお父さんが元気に活動していることを知らせられれば、嬉しく思います。
	ナカムラ ヨシヒト 中村 英倫	36	浜松市	私は高校2年生の時に不慮の事故で障害を負い、それ以来、車椅子での生活を送っています。障害を負っても、小学生から続けていた水泳は辞めず、努力した結果、パラリンピック出場は叶いませんでしたが、日本代表として、世界選手権などの国際大会に出場し、とてもいい経験ができました。障害を持つ自分が子どもたちとふれ合うことで、共生社会を実現する一助になればと思い、湖西市内の中学校で市職の学校事務として働いています。私が聖火ランナーになることで、子どもたちに夢や希望を与える他、障害の有無だけでなく、様々な多様性を認め合う共生社会の実現に向けて、良き象徴になることを願っています。

パラリンピック聖火ランナー 静岡県実行委員会選出者一覧

● 走行予定日 : 2021年8月17日 (39人)

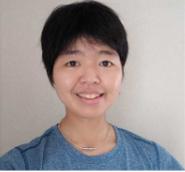
※ 姓名50音順・敬称略

写真	フリガナ 氏名	年齢 (7/31現在)	ゆかりの ある市町	自己PR・応募動機 / 推薦理由 (※応募時文章を要約。2020年2月応募時の内容・文体に基づく。)
	ニシムラ シンイチ 西村 慎一	49	裾野市	西村さんは、静岡県で唯一の身体障害者野球チーム「静岡ドリームス」が活動を始めた当初から、チームを支えてこられました。さらに平成15年には、全国大会である身体障害者野球大会「ドリームカップ」を創設。以来毎年、静岡県裾野市に全国各地から身体障害者野球チームが集まり、熱い戦いを繰り広げています。今では、多くの市民ボランティアや地元の学校・企業・商店が協力し、まさに「市民が支える」大会となっています。ドリームカップをより多くの人に知ってもらおうと、ハンディキャップに負けず、やりたいことをやろう！できるよ！というメッセージを伝えてほしいと思います。
	ハセガワ コウヘイ 長谷川 浩平	50	伊東市	今年50歳になる中途障がい者の車椅子ユーザーです。36歳の時、現在の医学では治療法がない難病の脊髄小脳変性症を発病しました。車椅子ユーザーになってからは、2011年に起業した青いカバ旅行社という旅行会社の代表をされており、起業当初より、住んでいる人達に優しい街は、観光客にも優しい街ではないかと思い活動しています。普通の人々が聖火リレーにチャレンジする姿をみて、障がい者・若い世代・高齢の方達にも、障がいがある事や年齢がいくつになっても、やろうと思えばできるという事を感じてもらい、あらゆる立場の人達に勇気を持って前進・行動してもらえたらと思います。
	フジイ エリナ 藤井 絵利奈	42	御前崎市	子どもの為、家族の為、地域の為、自分の為に毎日毎日無理をせず、しかし決してあきらめずリハビリの努力を4年以上続けている妻をパラリンピック聖火ランナーに推薦致します。妻は2011年5月に僧帽弁を人工弁に全置換する手術を受け、当時2歳と4歳の2人の息子の為にリハビリに励み続けました。2015年10月には再び突然、胸を押さえて倒れICUに運ばれ、命の山場を迎えました。現在は右半身麻痺、失語の後遺症を本人とともに前向きに捉え、子どもたちをお腹いっぱい食べさせてあげたい一心に片手で毎日、料理を努力する日々です。家族は勿論、友人や地域の皆さまに勇気と元気を逆に与え続けてくれてさえる妻に、何か達成感やオリパラの力を感じて貰えたらと皆で願っております。
	フジウラ カズコ 藤浦 和子	71	浜松市	常に「積極的に参加」が彼女のモットーです。40年前に病気で全盲となり生きる望みも失せ、死に場所も探せなかったと淡々と話される言葉には重いものがありますが、乗り越えた今ではご主人、ボラ仲間と共にどこにでも出かけいきいきと活動される姿は「全盲のチャレンジ」そして同じ障がい者の方の「光」になっています。これは彼女の努力の賜物以外の何ものでもありません。最近ではこれまでの経験を生かすことができるかもと「傾聴ボランティア」の講習を受け新たな挑戦をスタート。相手の表情を読めない視覚障がいがあるからこそ一生懸命に気持ちを受け止め受け皿になれたらと真剣です。素晴らしい女性です。
	フルハシ ナオユキ 古橋 直幸	30	浜松市	直幸は重い知的障がいのある自閉症です。今は社会福祉施設で作業をしています。浜松特別支援学校中学部の時、一人の先生から「走りつづりがいいね」と走ることを教えていただいてから、現在までずっと走っています。平成15年全国障がい者スポーツ大会静岡わかふじ大会炬火リレー走者へ選ばれて走らせていただきました。平成19年秋田わか杉大会に始めて浜松市陸上選手として出場させていただいたことも感謝です。わからないことの方が多くありますが、精一杯一生懸命、がむしゃらに走ることは誰にも負けません。重い知的障がいをもっていても頑張っている姿を皆さんに見ていただきたいと思い推薦させていただきました。
	マキノ ユウコ 牧野 優子	42	静岡市	私は、結婚して1人目の子を産んですぐに卵巣がんになりました。でも治療の後に、奇跡的に2人目を妊娠して出産し、2020年でちょうど10年経ちます。2回の手術、抗がん剤治療、清水に住んでいる家族も懸命に支えてくれました。そのあと完治して、もう一度生きられると思った時は、子育てを思いきり楽しみたいと思いました。そんな子供たちが小学生になり、今、娘も息子もマラソンが得意で頑張っています。ママもまだまだ頑張るから、ということを夫や子供に見せたい想いと、兄弟や両親に、元気になった姿を見せてあの時の感謝の想いを伝える為に走ります。
	マツダ マサカズ 松田 真和	35	菊川市	私は菊川市の公立診療所で家庭医として外来診療と訪問診療に従事しており、後進の医学教育にも携わっています。また、中東遠圏域自立支援協議会/重心部会の活動にも参加しており、障がいがあってもなくても住みやすい地域づくりができるように多様な皆さんと一緒に頭をひねっています。誰もが健康状態にかかわらず笑顔で生活できるように、どんなときも住み慣れた地域で暮らせるように、地域のニーズに応じた講演活動に取り組み、地域包括ケアシステム構築に尽力しています。聖火ランナーとしても社会貢献できれば嬉しく思います。
	ミズトリ ヒサシ 水鳥 寿思	41	—	私は2004年アテネ五輪に出場することができ、オリンピックの持つ力を肌で感じる事ができました。高校から地元静岡を離れて体操に打ち込んできたことから、静岡に還元できる取り組みがないか、また、オリンピックの価値を伝える機会がないかと常に模索しています。そのようななか、聖火ランナーになることは、地元でオリンピックムーブメントを伝えることができる絶好の機会と捉えています。これまで選手として、指導者としてオリンピックに関わることができたため、その価値を伝えることができると考えています。2020東京五輪でも指導者としてオリンピックに参加させていただく予定のため、ぜひパラリンピックの聖火ランナーとして参加したいと考えています。近年SDGsをはじめ、すべての方が住みやすい社会を目指すことはますます重要視されています。そのため、パラリンピックを広めていくことはスポーツから発信できる大きな社会貢献につながると考えています。このような理由から、聖火ランナーとして参加することを希望いたします。
	ミズノ ユウスケ 水野 裕介	31	菊川市	令和最初のチャレンジとして、聖火リレーで地域の皆様に貢献していきたいです。3歳頃から、言葉を話し始めるのが遅く、自分の想いを相手に上手く伝えることが苦手でした。2015年から、地域の皆様との触れ合いを高めようと、接客業(サービス業)に挑戦しています。そのなかで、様々なお客様と接していくうちに、だんだんとコミュニケーション力が上がってきました。お客様と他の社員の支えがあって、2019年4月から念願だった正社員への道が開けました。たとえ困難なことでも挑戦していきますので、聖火リレーの選手に選ばれましたら、活躍する姿を地域の皆様に見ていただきたいと考えています。
	ヤゴメ ヒサシ 家込 久志	58	浜松市	今の自分があるのは、障がいのある人との出会いがあったからだと感じています。約30年ほど前に障がいのある子供が生まれ、そこから障がい者との関わりが増えました。彼らとその家族がひたむきに生きている姿に心をうたれ、障害者施設を設立、毎日彼ら彼女らとともに活動をさせていただいております。そのような活動をする中でパラスポーツに打ち込むアスリートと出会い、彼らが血のこむような努力をしていることを知りました。機能回復とかリハビリとかそのような感覚とは、彼らが生涯、人生をかけていることを目の当たりにして、今は彼らに対して純粋な気持ちで応援しております。「彼らと一緒にパラリンピックを盛り上げたい」そんな思いです。
	ヤマモト マヒロ 山本 真広	15	掛川市	僕は先天性の顔面の疾患を持って生まれ、これまでに四回の手術をしてきました。見た目に関わる疾患のため辛いこともありましたが、でもたくさんの周りの人に支えられ、充実した毎日が過ごせていることに感謝しています。僕が今、目指しているのは文武両道です。部活では、野球部でキャプテンを任せてもらい、集大成に向けて練習を頑張っています。そして、将来は自分のような疾患を持った人たちの助けになるような医師を目指して、勉学にも力を入れて頑張っています。すべての人にとって、希望に満ち溢れた未来になるよう気持ちを込めて聖火を運びたいと思います。
	ヤマモト ケンセイ 山本 健惺	14	静岡市	5才の時に悪性脳腫瘍になり、10時間超の手術を2回受けました。術後は話せるようになり、握めるようになり、立てるようになり、歩けるようになり、と少しずつ回復しましたが、顔面神経麻痺及び体幹障害の後遺症があり、現在も何年かおきの抗がん剤治療も続いているのですが、走ることもできるようになっています。実は双子の兄(琉惺)がいます。健惺が退院してからは一人ではできない事が多く、常に琉惺が側にいて手助けをしてあげて現在に至っております。健惺がここまで普通に生活できるようになった事に琉惺の存在はほんとに大きかったです。ですので、できれば二人で(琉惺は伴走者)走る事ができたらと思います。

パラリンピック聖火ランナー 静岡県実行委員会選出者一覧

● 走行予定日 : 2021年8月17日 (39人)

※ 姓名50音順・敬称略

写真	フリガナ 氏名	年齢 (7/31現在)	ゆかりの ある市町	自己PR・応募動機 / 推薦理由 (※応募時文章を要約。2020年2月応募時の内容・文体に基づく。)
	ヨシダ サオリ 吉田 早織	31	富士宮市	私はNPO法人日本知的障害者陸上競技連盟から認定を受けたフルマラソンの知的障害者女子の日本記録保持者です。私が2018年東京マラソンの知的障害者の部10キロに出場し優勝した時、表彰式に移植者の部10キロのランナーがいることを知りました。臓器移植や骨髄移植をしても元気になって走れるんだととても感動しました。今、多くの患者さんが骨髄提供を受けられるようにと願って、「骨髄バンクにご協力ください」というタスキを着けて走っています。パラ聖火ランナーには、骨髄ドナーの方も走るし、骨髄移植を受けて元気になった元患者さんも走ると思っていますので、みなさんと一緒に走りたいです。
	ヨシダ ヨシフミ 吉田 理史	38	裾野市	ダウン症の息子は、2017年に妻の実家のある静岡県内の大学病院で生まれました。どうやって息子を育てていこうか悩んでいた時に、静岡県内の親戚や病院スタッフに多く助けられ、いまは自信を持って日々の成長を見守ることができるようになりました。息子が将来自立して仕事ができる環境を創りたいと考えて、昨年、家族経営の一般社団法人を設立しました。大きな勇気と希望を抱かせてくれた息子、常時献身的にサポートしている妻、暖かくサポートしてくれる各地の親戚、静岡の病院スタッフの皆様、いつも応援して下さる静岡・長野の多くの方々に心から感謝の気持ちを表しながら、またハンディキャップのある多くの方が活躍できる社会を願いながら走りたいです。
	Lim Jeremy, Hon Lee	31	静岡市	Jeremy Lim was born with Osteogenesis Imperfecta, also known as brittle bone condition. As a result, he has been wheelchair bound his whole life. However, his disability did not stop him from becoming a guiding light for many. He has received the National Youth Achievement Award Gold and was voted one of the Ten Outstanding Young People of 2019. His dedication and effort has led to him being featured in Singapore's school textbooks as a role model to all students. Jeremy also has an undying love for Japanese culture. His passion has allowed him to earn a master's degree in Japanese Studies and win the Singapore National Japanese Speech Contest sponsored by the Shizuoka Prefectural Government. He was invited to Shizuoka and was presented to Dr Heita Kawakatsu. Jeremy believes that there is a lot that we can learn from the Japanese culture, including how to treat others with kindness and respect.

※パラリンピック聖火ランナーは、自薦と他薦の2つの応募方法により選出されました。自薦の場合は「自己PR・応募動機」、他薦の場合は「推薦理由」の公表となっています。

※各ランナーの走行箇所は未定です。

※この他、東京2020パラリンピック聖火リレーパートナー等が選出したランナーが県内を走行する予定です。

パラリンピック聖火ランナー 静岡県実行委員会選出者一覧

●走行予定日：2021年8月17日（2組12人）

※所属50音順・姓名50音順、敬称略

◇ 東部特別支援学校伊豆高原分校と伊東高等学校城ヶ崎分校（3人）

写真	フリガナ 氏名	年齢 (7/31現在)	所属	学校(グループ)PR
	スズキ コウヘイ 鈴木 康平	17	東部特別支援学校 伊豆高原分校	東部特別支援学校伊豆高原分校と伊東高等学校城ヶ崎分校は、平成14年4月に全国で初めて高等学校内に特別支援学校が併置され、学校行事や日常的な学校生活の中での共生・共育に積極的に取り組んでいる。そのことで、自己と他者の違いを認め合い、共に社会を築く力を持ち、共生社会の実現に向けて、今回の聖火ランナーを通して、より一層交流が高まるきっかけになればと思う。
	ヤナギサワ モエ 柳澤 萌	17		
	ヤマモト イロハ 山本 彩葉	16		

◇ 静岡北特別支援学校南の丘分校と駿河総合高等学校(9人)

写真	フリガナ 氏名	年齢 (7/31現在)	所属	学校(グループ)PR
	アキヤマ ユウガ 秋山 有雅	17	静岡北特別支援学校 南の丘分校	私たちは、知的教育特別支援学校と総合学科の高等学校とが、共に学び、今年で9年目を迎えます。開校以来、同じ昇降口を通り、同じ体育館で汗を流しているだけでなく、学園祭、体育祭、マラソン大会を生徒同士で企画・運営してきました。また、共生共育集会、共同授業、LHR交流など、日々の学びの場も共有しています。ともに学び、共に社会を切り開いていく仲間として、これからも走り続けていきます。
	コイケ ヒロチカ 小池 寛親	16		
	コジマ セイガ 小島 星河	16		
	ナカジマ ダイチ 中島 大地	17		
	オオシロ ショウタ 大城 笙太	17	駿河総合高等学校	
	カツヤマ クルミ 勝山 くるみ	18		
	サカシタ ユウガ 坂下 悠芽	18		
	モチヅキ ユウ 望月 優	17		
	モリ マサト 森 真人	17		

※各ランナーの走行箇所は未定です。

※この他、東京2020パラリンピック聖火リレーパートナー等が選出したランナーが県内を走行する予定です。